

③					②	①	
〈お父さん〉				〈ミナト〉		㊦	数の の け た
し く な る	した長さを	ことはできるから、一を	一メートルのひもを、	き な い	う 十 分 の 一 に は で	千	
						①	
と 考 え た。	表 す 数 が ほ	十	十	と 考 え た。	一 は、いちばん小さい数だから、 も	百	
						㊧	
						十	
						㊨	
						一	

「かいせつ」

(1) お父さんの言葉に、「数^ばって、一を十倍^{ばい}、また十倍^{ばい}ってしていくと、一、十、百^{ばい}って、数のけた^{ばい}がふえるよね。」とある。

(2) ミナトの言葉に、「ええつと、一、十、百、千、万の反対^{はんたい}だから、万、千、百、十、一。」とある。「反対^{はんたい}だから」とあるので、それより後の部分^ぶが答え^{こた}になることに注意^{ちゅうい}する。

(3) 文章^{しょう}の終わり^おのほうの、二人の言葉^{ごんご}から読み取る^と。

⑤	④		③	②		①	
五	ん	も	しんの	B	A	チ	お
	小	の		小	左	で、	父
	さ	さ	太さ	さ		数	さ
	い	し		な		の	ん
	目	の		点		話	と公園の
	も	い				をしている。	ベ
	り	ち					ン
		ば					

「かいせつ」

(1) 第一段落から読み取る。

(2) お父さんの言葉に、「一を十倍したときには、一の右にゼロをつけたよね。そこで、^A十分の一にしたときには、左にゼロをつけるんだ。それから、^Bゼロだけじゃなくて小さな点も。」とある。

(3) お父さんの言葉に、「たとえば、0・1と書いて、『れいてんいち』って読む。これを小数といって、0.5mmというのは、しんの太さのことなんだけど」とある。

(4) ミナトの言葉に、「そうかあ。でも、ちょっと待って。一ミリメートルって、ものさしのいちばん小さい目もりでしょう。」とある。

(5) 0・1ミリメートルと、シャープペンシルのしんのケースに書いてある、0.5mmをくらべていることを読み取る。0.5mmが、0・1ミリメートルの何こ分になるかを考える。

(4)				(3)			(2)	(1)	
と 考 え た。 									

「かいせつ」

(1) 第一段落から、二人がいる場所と、話している内ようを読み取る。

(2) ミナトの言葉に、「十倍の反対でしょう。十分の一。」とある。

(3) ミナトの言葉に、「ええつと、一、十、百、千、万の反対だから、万、千、百、十、一。」とある。「反対だから」とあるので、それより後の部分が答えになることに注意する。

(4) 文章の終わりのほうの、ミナトの言葉から読み取る。

⑤			④	③	②	①	
とても	で、	細	イ	れいてんいち	右	②	①
	す	い				数の話	ベンチ
	ら	の					
	す	に					
べ	ら	の					
ん	す	に					
り	ら	じ					
だと思った。		よ					
		う					
		ぶ					

「かいせつ」

(1) 第一段落から読み取る。

(2) お父さんの言葉に、「一を十倍したときには、一の右にゼロをつけたよね。」とある。

(3) お父さんの言葉に、「たとえば、0・一と書いて、『れいてんいち』って読む。」とある。

(4) 0・一ミリメートルと、シャープペンスルのしんのケースに書いてある、0・5mmをくらべていることを読み取る。0・5mmが、0・一ミリメートルの何こ分になるかを考える。

(5) ミナトの言葉を聞いて、お父さんは、「細いのになじょうぶで、すらすら書けるし、とてもべんりだね。」と思ったのである。



③		②		①
小 数 の 勉 強	キ	B	A	ウ
	ャ	小数第 二位	九	
	ッ		秒	
	チ		七	
	ボ		三	
	ー			
	ル			

「かいせつ」

(1) お父さんの言葉に、「0.0ーが六こで0.06だね」とあるので、0.0ーを六倍した数が、0.06になることが分かる。したがって、ウが正しい。

ア：0.06秒は、0.ー秒よりも短い時間である。

イ：0.ー秒の十分の一は、0.0ー秒である。

エ：0.ー秒の六分の時間は、0.6秒である。

(2) ミナトの五十メートル走のタイムは、九・七三秒である。

A ミナトの言葉に、「五十メートル走のタイムを計ったとき、ぼくは九秒七三だった。」とある。

B 「三」は、小数点の次の次の位なので、小数第二位になる。

(3) 本文に、「新しいグローブでキャッチボールをして、小数の勉強をして、今日は何だか、いそがしい一日になりました。」とある。

「を」をして、「を」をしてという言葉で、今日、ミナトがした二つのことが書かれている。



④		③	②		①
小	キ	九	①	㊦	ストップウォッチ
数	ャ		もう一度	スタートのボタン	
の	ツ				
勉	チ				
強	ボ				
	ー				
	ル				

「かいせつ」

（１）ミナトの言葉に、「そういえば、ストップウォッチで時間を計るときも、小数を使うね。」とある。

（２）ミナトの言葉に、「うん、そう。スタートのボタンをおして時間を計り始めて、もう一度ボタンをおすと、5・26みたいに出来る。」とある。

（３）ミナトの五十メートル走のタイムは、九・七三秒である。
九…一の位
七…小数第一位
三…小数第二位

（４）本文に、「新しいグローブでキャッチボールをして、小数の勉強をして、今日は何だか、いそがしい一日になりました。」とある。
「ゝをして、ゝをして」という言葉で、今日、ミナトがした二つのことが書かれている。